

二種混合（ジフテリア・破傷風）の予防接種の効果と副反応について

乳幼児期に実施しました三種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風）予防接種の追加接種を行います。

追加接種は、11～12歳時に二種混合（ジフテリア・破傷風）で実施します。確実な免疫をつくるため、ぜひこの機会に予防接種をうけておきましょう。接種場所は、委託医療機関となります。お子さんの体調を理解した保護者の方がお連れください（※保護者同伴が原則です）。また、必ず本紙をよく読んでから接種してください。

対象年齢に達しているか
ご確認のうえ受診してください。

【対象年齢】 11歳以上13歳未満

（標準的な接種期間：11歳に達した時から12歳に達するまでの期間）

【病気の概要と予防接種の効果】

①ジフテリア：ジフテリア菌の飛沫感染でおこる急性感染症です。感染は主に咽頭ですが、鼻にも感染します。症状は高熱・のどの痛み・犬吠様の咳・嘔吐などで、偽膜を形成して窒息死することや、菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺をおこして死亡することのある病気です。

（効果）1981年に予防接種が導入され、現在では患者発生は非常にまれです。しかし、もともとジフテリアという病気は、感染しても10%程度の人が発症するだけで、残りの人は不顕性感染のため保菌者となり、その保菌者は日本にも存在している可能性があります。また、海外での流行により、日本にもちこまれる可能性もあることから、今後も予防接種を続けていないと再び流行する可能性のある恐ろしい病気といえます。

②破傷風：破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中に潜んでいます。ヒトへの感染経路は傷口です。患者の半数は自分では気がつかない程度の軽い傷が原因です。傷口から菌が入り体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんや全身性強直をきたし、次第に激しさと頻度を増して死に至ることもあります。日本中どここの土の中にも破傷風菌はいます。

（効果）ワクチンによる免疫効果は著明で、その効果は10年以上続くといわれています。乳幼児期に三種混合の中で接種していますが、11～12歳の時に追加接種を受ける必要があります。

【接種方法】

区分	回数	接種量	予診票
2期	1	0.1ml	若草色

【副反応】

予防注射は、重篤な病気の発生や流行の阻止に大きな成果をあげていますが、ごくまれに下記のような副反応があります。

(1) 非常にまれではありますが、重大な副反応

ショック、アナフィラキシー様症状（蕁麻疹・呼吸困難・血管浮腫等） 0. 1%未満

(2) その他

- ① 全身症状：発熱・悪寒・頭痛・倦怠感、まれに下痢・めまい・関節痛等を認めることがありますが、通常、いずれも一過性で2～3日中に消失します。
- ② 局所症状：接種部位の発赤・腫脹・硬結・痛み等の局所反応がみられますが、反応は数日中に自然に治まります。

【注意点】

- (1) 予防接種は健康な人が元気な時に接種を受け、その病原体の感染を予防するものですから、体調の良い時に受けることが原則です。
- (2) 予防接種を受けることができない人
 - ① 当該予防接種（2期）に相当する予防接種を受けたことのある者
 - ② 明らかに発熱している人（一般的に体温が37. 5度以上の場合を指します。）
 - ③ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
 - ④ 予防接種等によりひどいアレルギー反応を起こしたことのある人
 - ⑤ その他、医師が不適当な状態と判断した場合
- (3) 予防接種を受けるに際し、主治医とよく相談しなくてはならない人
 - ① 心臓病・腎臓病・肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
 - ② 過去に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱・発疹等のアレルギーを思わせる異常がみられた人
 - ③ 過去にけいれんをおこしたことがある人
 - ④ 免疫不全があると指摘されたことのある人、及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
 - ⑤ ワクチンの成分に対して、アレルギーをおこす恐れのある人
- (4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項
 - ① 副反応の多くは一週間以内に出現しますので、この間は十分注意しましょう。
 - ② 入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすことはやめましょう。
 - ③ 接種当日はいつもの生活をしてかまいませんが、激しい運動は避けましょう。